

佐高 信の甘口でコンニチハ!

Guest

田中康夫

(作家、元長野県知事)

## この国のあり方を考える

昨年『33年後の、なんとなくクリスタル』を刊行。「33年」というのは、作家、長野県知事、衆参議院を経てきた田中さんの年月でもある。日本の政治は「かたち」ではなく、「あり方」から考えなきゃいけない、と田中さん。独特の語り口で大いに語っていただいた。



Guest

## 田中康夫

(作家、元長野県知事)

## この国のあり方を考える

「イツマイプレジャー」

**田中** 今日はなんでお招き下さったの(苦笑)。だって佐高さんは久しく田中康夫のことを評価してなかったじゃない。春の陽気で、ちよつとホルモンの変調があつて呼んでしまったのかな。

**佐高** まあ、それは否定しないけど(笑)。俳句との出会いとかつてあったの？

**田中** 前回の東京五輪の年に小学二年で上田に転校して松本で高校を卒業するまで長野県にいたから、親に小林一茶の俳句を書いて覚えさせられたりとかしたよ。

**佐高** ああ、そう。

**田中** 柏原の一茶旧宅に、新潟の





たなかやすお／作家・元長野県知事

1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。東京オリンピック開催の64年から75年まで信州で過ごす。80年『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。95年阪神淡路大震災以後、ボランティア活動に従事。2000年～06年、信州・長野県知事。07年～12年参議院議員、衆議院議員。14年『3年後のなんとなく、クリスタル』発行。小説に『ブリリアントな午後』『オン・ハッピーネス』『昔みたい』『サースティ』など。評論に『ファディッシュ考現学』『たまらなく、アーベイン』『神戸震災日記』『憂国呆談』など。翻訳にマイケル・ジャクソン自伝『ムーンウォーク』。

<http://www.nippon-dream.com/>

海へ行く途中に寄ったことがあるんだけど、古めかしい、方丈庵みたいなものを想像していたら、漆喰壁を塗りかえた後でピカピカだね、子供心に、直すにしたらって、そうじゃない、もうちょっと経年変化のような雰囲気を出して下さい

いなくて思った。

でも今にして思うと、「長野県」は歴史を捏造する県民性だからね。佐久間象山は、死ぬ直前にも象山と呼んでくれと念押ししているのに、信濃教育会というラヴリーな大政翼賛会は、言にくい

という理由で佐久間象山と改変するんだから。唯我独尊のおらが山なのよ（涙）。

佐高 でも、その知事になったじゃない。

田中 それで心が「千々」に乱れちゃった（爆笑）。何だ田中なんか知事の知が、やまいだれの「痴痔」だろとか言われていたわけよ。君ら県会議員の県議のほうが、嫌われる、疑い深い「嫌疑」じゃないのって話なんだけど（苦笑）。日本語って便利だね。字の変換ができるから。いかん、もうちょっと真面目な対談にしないと。

佐高 いいよ（爆笑）。田中康夫の中では、その「痴痔」であることも全然違和感ないんだよね。文学、政治とかいう仕切りがない。

田中 確かにね。私にとっては、

恋愛もボランテニアも政治も行政も、人に喜んでいただいてナンボだと思ってるから。でも人によっては、私がこれをしてあげたら喜ぶかなと思っても、喜ばない人もいるかもしれない。そのときは少し残念かもしれないけど、私がその人の望んでることを、恋愛においても、行政においても、的確に認識出来なかつたと思うんだ。でも相手の側もしてもらって当然と思ひ込んでいたら、それは思ひ上がりで、これだけしてもらえたら、じゃあ私も少し出来ることをしようかなって気持が大切。

仮にね、どこかのエレベーターに乗ったときに、私が乗ってたら見知らぬ人が後から慌てて入って来て、たまたま同じフロアで降りるといふときに、向こうのほうが急いでる感じだったら、私がドアを押さえるかボタンを押して、「さあ、お先にどうぞ」と言うのが「アフターユー」の精神。

つまり、あなたと私は全く見知らぬ者同士だけど、たまたまこのエレベーターに乗り合わせて、あなたのほうが急いでいると思つて、お先にどうぞと言つたら、果たせるかな、あなたが「サンキュー」と喜んでくれたと。それは私にとつての密やかな「イツツマイプレジャー」ですと。

だから、相手がこれ違うよつて反応したら、そうかあ、残念だけれど、これを望んではいかなかったんだねって思うことが学習であつてね。なんちゃって。

佐高 いいね、「イツツマイプレジャー」。

田中 ひのはらしげあき 日野原重明さんも書いてらしたけど、アメリカの病院では、医師が必ず、ベッドの高さまでかがんで、「今日の具合はどうですか」と尋ねる。それは同じ目線に立っていれば、ほんのちよつと痛いただけでも遠慮せずに、大分具合は良くなつたけど右腹が少し痛いですと言える。でもそれは自分が患者だから、かがんでもらつて当然と思つているのではなくて、自分も気分が良いときには、少し身を起こしてベッドの上で、医師や看護師と同じ目線に近づこうといふ、相互扶助の精神を持つてね。それがお互いの「イツツマイプレジャー」なわけですよ。

ということを知事になつたときに職員に語つたら、県立病院の生真面目な看護師が手を挙げて、「こ

れまでの県政は医療・福祉の予算をケチってたから、電動ベッドも

少なくして患者は容易に起き上がれません」って。私が言っているのは立ち上がるか立ち上がらないかなんて形式じゃなくて、相互扶助の気持を言ってるんだよ。私たちは出来ないと言っているんじゃない、それが出来るような環境をどう作るのか。つまり「かたち」ではなくて「あり方」というところから考えなきゃいけないのに、日本は制度という形から変えようとはばかりするんですよ。

## 制度重視の日本

**佐高** 知事時代に、市町村合併を進めなかったよね。

**田中** もちろん。でも私と福島県

知事の佐藤栄佐久さんぐらい。

**佐高** 佐藤さんがある程度抵抗したんですよ。

**田中** それで彼は「冤罪」に。私は百条委員

会で糾弾された(苦笑)。元岩手県知事の増田寛也が言っているコンパ

クトシティと称するの

は、平成の大合併と同じ単なる箱物行政。だから霞が関が誰も反対しないで大賛成している。

**佐高** なんか、泥棒が戸締まりしろって言うような話だよ。『地方消滅』とかいう本がやたらと売れているんですよ。

**田中** 新手法の靈感商法かもよ。

**佐高** 私もなんかうさんくさいと思つた。



**田中** だって私が知事になった二

〇〇〇年には、市町村の数が三二二九あったわけ。去年の十月時点では一七七八と半減。でもね、合併特例債は建物と公園しか造れないから立派な庁舎が続出しただけで、訪問介護が充実したわけじゃない。合併しないと行政サービスが向上しないと脅した結果がこれだよ。知ってる？ フランスは、



いまだに自治体（コミュニティ）が三万六千もあるんだよ。誰でも知ってるカマンベールチーズのカマンベール村は人口二百人だよ。

佐高 ああ、そうなんだ。

田中 そうなの。じゃあフランスでパリに次ぐ人口の町はどこか知ってる？ マルセイユの人口八十三万人だよ。まさに世田谷区と同じ人口。それが二番目。

自治体が三万六千あるから、フ

ランスは非効率なのかといったら、そうじゃない。アメリカだつて州憲法で認められた自治体が八万四千もあるわけですよ。

自治体の権限が日本よりも制約されてるんだとか言うけど、違うでしょと。合併しなくたって日本でも法律に基づいて一部事務組合を作つて、ごみ焼却場を始め、広域でやつてるわけでしょ。合併しなくたって鉄道は全部相互乗り入れしている。なのに日本は制度ばかり、いじくるんだよ。

佐高 そういう、合併したい人たちからの圧力はすごかったの？

田中 だから守旧派の皆さんは百条委員会で、入札制度改革を逆手に「冤

罪」を仕立て上げようとしたのよ。すべてがガラス張りだったから失敗したけどね（爆笑）。

今の日本の問題は、都道府県知事の七十五％は霞が関出身なこと。総務省に加えて経産省出身も多い。ヒラメなわけですよ。「中央」という上を見てばかりいる。

「地方分権」を語つてる人には、欺瞞があると思わない？ 道州制の構想も、今の四十七都道府県では効率が悪いから九か十一にすると言つてる。でも現行の都道府県を基調としての道州制だから、長野県はいずれの案でも北関東州になるわけ。何で木曾谷と伊那谷が北関東州で、東海州じゃないんですかということでしょう。本当の道州制を目指すなら、地勢圏、交通圏、経済圏、歴史圏、文化圏とい

う五つによってガラガラボンシなきやいけないんだよ。既に長野県は国土交通省も関東地方整備局、北陸地方整備局、中部地方整備局で川ごとに分かれているわけですよ。JRは旅客三社。JR東日本に加えて、伊那谷・木曾谷がJR東海で、白馬村から上の糸魚川まではJR西日本なわけ。

道州制導入は廃藩置県以来の大改革と語る県議に言ったの。長野県が三分割されるくらいの覚悟をお持ちなんですと。黙っちゃったけどね(苦笑)。市町村合併も道州制も、「この国のかたち」ばかり日本では語られるけど、政策本位の政治を実現するはずの小選挙区制が政治の劣化を招いたのと同じ結末でしょ。「この国のあり方」を考えなきやいけない。

佐高 例えば長野県が三分割される、と言われると分かりやすいね。

### 『33年後のなんとなく、クリスタル』

佐高 去年出た『33年後のなんとなく、クリスタル』なんだけど。これを読むと、あなたに仕切りがないというところは理解できる。すつと読めるよね。なんか書評で、政治的な部分、知事をやっていたときの部分と違うところが、融合してないとかいう、愚かなる書評があったじゃない。

田中 ありました。大半の書評では珍しく評価が高かったのにね(苦笑)。まあ、団塊世代と団塊ジュニア世代は、それとこれは違うと語りたがる不毛な二元論だから。「田中康夫」は両性具有的な女性

の感覚なんだよね。

佐高 あなたいつも、自分はおばさんだつて言つてたよね。

田中 そうそう、おばさん感覚。佐高さんが読んだ書評は、五十代になつた女性がイタリア料理の女子会でパスタの味付けを論評する一方で、限界集落化する都心の少子高齢社会を憂い、子宮頸がんワクチンを疑問視する展開は絵空事だと批判してたよね(苦笑)。じゃあ牛井かつくらつて、世の中を憂えていたら、それはリアルなのかなよと。この手の手合いに限つて、美食家と称するフランス人が懐石料理を食べながらグローバリズムの弊害を語っている翻訳文学は無批判に賞賛したりするから困つたもんだ。「社会性」とやらを持ち合わせているようできて実は「感

性」ならぬ「勤性」が鈍い。そうした「男性的思考」では未来を創れない。

「女性的発想」という表現が仮に許されるなら、料理や化粧の話をするのも、副反応が強いワクチンよりも子宮頸がんの検診を充実させるのが先じゃないのと訝るのも、そして原発から脱却出来ない日本を嘆くのも、それらはすべて等価なんです。私は「なんとなく、ク

リスタル」(Ⅱ「もとクリ」)以来、

一貫して「ルイ・ヴィトンのバッグも岩波新書も等価」だと言ってきたわけじゃない。岩波文庫を一冊読んだ時の青年の感動も、ルイ・ヴィトンのバッグを買った時の少女の感動も、それは等価なんだよ。

佐高 だから、変わってないなど。

田中 なあんだ、田中は一向に成長してないと言いたいわけだ。

佐高 そんなこと言っちゃいけない(笑)。

田中 実は「もとクリ」の膨

大な註の一番最後は、日本の合計特殊出生率と高齢化率の推移と今後の予測数値だったわけだ。でも当時、日本のメディアは誰も言及せず、単なるカタログ小説だと腐くさしたわけだ。他方でワシントンポストとか、ガーディアンとかル

モンドとかもインタビュに来て、何で君は出生率と高齢化率を載けたんだって言うから、「これを見れば、日本の人口が激減していくことは明らかだ」ということは、私たちのあり方を変えないといけない。言うは易し行うは難しだけど、変わらなきゃいけないという気持があつて、その中にあって大量消費社会、高度消費社会に入っていく一九八〇年、という物語だ」と答えたわけ。

日本では当時誰も触れなかったけど、『33年後のなんとなく、クリスタル』(Ⅱ「いまクリ」)の上梓前に「もとクリ」文庫の新装版で高橋源一郎氏が「これほど深く、徹底的に、資本主義社会と対峙した小説を、ぼくは知らない」「社会が異様な繁栄へ向かいつつある



その瞬間に」「著者の田中康夫だけが提出することができた、世界の荒涼たる未来の風景を見なかつたことにした」と解説したら、「私も当時からそう思っていました」と言い出すメディアの人間が続出して笑つちやつたけどね。

病氣や事故で亡くなる人がいるから先進国では二・〇七で人口は横ばいを保てる。ところが日本の出生率は一・四三。

どんなに女性の出産や働く環境を整えても、人口は減り続けるんだよ。厚労省の社会保障・人口問題研究所の予測では、出生率が今のままだと日本の人口は百年後に四千三百万人。今後百年間、奇跡的に出生率が二・〇七をキープしたとしても九千百万人。現在より三千六百万人も減少する。

なのに去年の六月に閣議決定した文章、佐高さん知ってる？」「二〇二〇年を目的にトレンドを変えていくことで、五〇年後にも一億人程度の安定的な人口構造を保持することができると。破綻した社会主義の計画経済みたいな大本営発表を閣議決定しているのよ。

で、この前段として経済財政諮問会議の「『選択する未来』委員会」って部署で内閣府が配布した「目指すべき日本の未来の姿について」という文書には、移民を毎年二十万人受け入れれば日本の人口は百年後も一億一千万人程度を維持と明記している。

移民政策はしませんと予算委員会で答弁する一方で、閣議決定だからね。移民に賛成反対の二項対立の前に、ローマ帝国以来、移

民で成功した国は古今東西存在しないし、実はベトナムの出生率も一・八、タイに至っては日本と同じ一・四。ASEANも少子化なのに、どこから受け入れるんですかって話。机上の空論でしょ。

日本が最も輝いていたとネットウヨ君たちが信じている日露戦争の前後は四千五百万人だもの。知事になる前から述べてきたように、量の拡大や維持でなく質の充実を図るべきなんだ。なのに、これだけの大問題を日本のメディアは「鈍感力」を発揮して取り上げようともしない。もつと言えば鳩山由紀夫氏が、日本列島は日本人だけのものではないと言った時に、ブギヤールとお怒りになった方々や、「国柄」を守ると豪語してきた人たちも沈黙状態でしょ。「国柄」

が変わる話なのにね。

個人的には、フランスやイタリアと同じ六千万人前後の日本を指すべきだと思うけど、少なくとも一億人か六千万人か四千五百万人か、三つの選択肢を示して国民に議論を求めるのが政治の役割。なのに「フクイチ」の汚染水に象徴されるように今や日本は法治国家でなく、放置したままの放置国家。そして誰も深く考えない呆痴国家。民度は眠る眠の「眠度」に

なっているわけですよ(涙)。

佐高 結局あれなんだね。今の数字とかはやつぱり無視して、精神論だね。

田中 だから想像力、「勘性」と呼んでいるんだけどね、それがないんだね。その一方で今、日本はたそがれなのかなど多くの人が思い始めてるわけです。でも、それを認めたくないから、日本すごいぞ論みたいな空威張りがメディアでも氾濫している。

はたれ。「彼は誰」と書いた。でも、

確か江戸時代の辺りまでは、日出と日没の両方も「かはたれどき」と呼んだのね。夕焼けも夜明けも空の色合いは似ているから。

とするならば我々は、さつき言った日本すごいぞ論のような空理空論とは違う、しなやかな矜持を抱いて、できる事を、できる時に、できる所で、一人ひとりができる限り行う。我々は、仮に自分が社長であろうと、首相であろうと、すべてを采配することはできない。高度消費社会の歯車の一つなんだから。ささやかだけど、確かなことと云うのかな、微力だけど無力じゃないと信じて、一人ひとりができる事をしていく。

六十五歳以上が七%に達すると、高齢化社会と国連が定義していて、

佐高さんのような碩学せきがくには釈迦に説法だけど、昔は「たそがれ」というのは「誰そ彼」と書いたわけだ。そこに立っているのが誰なのか、訊かなければ判らない時間帯。で、夜明けのことは「か

今や日本は六十五歳以上が四人に一人の超高齢社会。でね、実は一九七〇年が七%に達した高齢化元年。「人類の進歩と調和」を掲げ

て大阪万博が開催された年だ。でも誰もピンときてなかった。月の石を見て、永遠の未来があると皆が思っていた。「何でこんなトー

テムポールをつくるんだ」と太陽の塔は笑われたけど、今にして思うと岡本太郎は暗黙知として、警告を発したんだと思う。一九九〇年

に黒澤明が最後の作品『夢』の中で原発の危険性を暗示したように。そこに芸術とか俳句とかの、よって立つべき場所、一目置かれるところがあるんだろうね。佐高 なるほど。田中 そういうことで考えれば、日没の「彼

は誰」時と思われている日本が、日出の「彼は誰」時をいかに実現するか。量の拡大や維持から質の充実へ。早晚、他の国々も直面する超少子・超高齢社会のお手本を日本が示してこそ、オンリーワン・ファーストワンのモノ作り産業で世界を席巻した日本が、別の意味でのファーストワンを世界に示せると。

佐高 なるほど。うん、見事にまとめてもらった。

田中 またまた、そんな表情しちゃって（爆笑）、実は早く帰りたいと思ってるんでしょ。

佐高 違う。そんなこと思ってたら、最初から呼ばないよ（笑）。

田中 まあいいや。久方ぶりに佐高さんと会えて楽しかったよ。

（2015.3.12 山の上ホテルにて）

